

●「災害時における応急生活物資の供給協定」を締結している自治体との懇談会

10月2日（金）みやぎ生協文化会館ウィズにおいて、宮城県の後援を受け、「災害時における応急生活物資の供給協定」を締結している自治体と、「第2回懇談会」を開催しました。

台風18号の被害対応や前日からの強風警報対応で欠席される自治体もあり、11自治体15人、宮城県1人、生協関係者10人が出席しました。

はじめに、「大規模災害におけるみやぎ生協の対応」「物資

調達と配送計画」について説明し、その後、3つのグループに分かれて質疑応答や意見交換を行いました。グループ討議は積極的な意見交換の場となり、自治体の担当者からは、「緊急時の各自治体への物資配送」「県への物資一元化の問題」「調達可能な商品の種類・量」に関する意見が多く出されました。

みやぎ生協の平時の備えや訓練、一次避難場所としての施設開放など、災害に対する取り組



グループ討議での意見交換の様子

みをご理解いただける機会になりました。今後も、年に1回開催し、各自治体の担当者と顔が見える関係を作り、災害時の対応に生かして行ければと考えています。

（機関運営課課長 鈴木純子）

●「嵐」のライブで展示販売しました

宮城県が復興支援として誘致したアイドルグループ「嵐」のコンサートに、「みやぎ生協として復興支援商品の出店はできないか」と、7月に開催された「県知事懇談会」において話題になり、宮城県及びイベント会社の協力を得てブース出店しました。

9月20・22・23日の3日間、ひとめぼれスタジアムで行われたライブ会場で、食のみやぎ復興ネットワークから「希望の菜の花はちみつ」「復興互理そば乾麺」を、復興支援手作り商品「ミサンガ」「さんまのペンシルケース」等をNPO法人応援のしっぽと共に展示販売しました。

お客様ひとりひとりに、商品

の特徴や出店の趣旨を説明しました。「ライブに来れなかった友人にお土産にします」「復興応援がんばってください」など温かい声をかけていただいたり、たくさんの方々に復興支援商品を購入していただきました。

また、手作り商品に関わっている方々も励みになり大変喜んでいただきました。



復興支援手作り品を買い求める来場者

（生活文化部課長

松本研一郎）

新ブランド「^{ここんとほく}古今東北」商品誕生！【食のみやぎ復興ネットワーク】

東北地方の「震災被害からの復興」、そして、「地域経済の振興」を目指し、全国に向けて、東北地方の魅力を発信していく新ブランド商品です。

第一弾商品は11/19(木)から、みやぎ生協の店舗で発売開始！「なたねプロジェクト」や「わたりのそばプロジェクト」の活動から生まれた商品や、宮城の若い漁師のグループ「フィッシャーメンジャパン」とのコラボ商品など、地域復興の思いを込めた選りすぐりの品々をお届けします。

※家庭はん・個人宅配は、12月1週から取り扱いします。

（食のみやぎ復興ネットワーク事務局 藤田孝）



COCON TOHOKU

目印はこのマーク！

生協あいコープみやぎ

● あいコープふくしまと「交流会」

9月8日(火) あいコープみやぎの脱原発委員と理事7人が、あいコープふくしまを訪問し、あいコープふくしまの理事、職員の皆さんと交流しました。

原発事故後、あいコープふくしまでは、福島で暮らし続けるために学習と討論を重ね、「測って安心、測って対処。放射能を学び、可視化して対策を！」を、生協運動の柱として活動を積み重ねてきました。

生協事務所に放射能測定器を設置し、供給商品はもちろん、

山菜や家庭菜園の野菜など組合員の希望があれば何でも測定し、その結果を機関紙「ひまわり」で毎週公表してきました。さらに「身体」そのものも測ることこそ大切と考え、ホールボディーカウンターを導入し、希望する組合員さんはどなたでも計測できる体制を整えています。

組合員に「一人で抱え込み悩まないで交流しよう！」と呼びかけ、測定活動を続ける中で、日々の食事や生活習慣などの「暮らし方」が心身の健康を左



「交流会」の様子

ホールボディーカウンター

右する…ことも実感され、代謝アップ・免疫力アップのためにも、あいコープ商品の利用を中心とした生協生活の充実に取り組んでいるとのことでした。

(理事 須藤和恵)

みやぎ県南医療生協

● 「山元花釜秋祭り」は今年も大盛況！！

10月10日(土) 山下駅前広場では3回目となる「秋祭り」が開催されました。地域の被災者

の方々や子どもたちも含め400人以上の参加があり、にぎやかに楽しいひと時を過ごしました。

秋祭りには、神戸医療生協、ヘルスコープおおさか、きづがわ医療生協、尼崎医療生協、兵庫県生活協同組合連合会から、準備や要員、出店、さらに舞台にまで参加していただきました。

医学生による子どもコーナーや健

康クイズも大好評で、浜通り医療生協のFTF車による放射線量測定にも多くの方の参加があり、この中には子供たちの姿もありました。

今回は全国の24の医療生協から抽選景品として、地元の名産品を沢山お送りいただき、すべての参加者に差し上げることができました。

参加記念品は、みやぎ生活協同組合フードバンクにご提供いただきました。ありがとうございました。

(常務理事 児玉芳江)



①FTF車②大抽選会③医療生協の仲間、全員集合！

大学生協みやぎインカレ

● 岩手県陸前高田市へ被災地訪問

10月11日(日)大学生協東北ブロック主催「岩手県陸前高田市被災地訪問」に、大学生協みやぎインカレから理事3人、組合員2人が参加しました。

現在は陸前高田市観光物産協会に勤務する岩手大学の卒業生に、被災地を案内していただきました。震災遺構の中学校や市営アパートなども見学しました。海岸から遠く離れているこんなに奥まで、津波が押し寄せてきたと思うと驚きです。

当日は、高台に移転新築した高田高校も訪問しました。大学生協と高田高校とのつながりは、東日本大震災後に「岩手の高校に教科書や辞書を送ろう」という取り組みがきっかけでした。

また、東北大学に合格し、入学に胸膨らませていた高田高校の女子学生が震災で亡くなられたという残念なこともありました。

陸前高田市の復興は、まだまだこれからです。陸前高田の「うごく七夕まつり」も、毎年継続



奇跡の一本松を視察する参加者

したいとのことでした。

大学生協みやぎインカレの震災復興再生の取り組みは引き続き、全国にアピールし、東北に来て頂くこと、未来の大学生応援募金も推進したいと決意しました。(理事 青柳範明)

宮城県高齢者生協

● 震災復興支援ツアー2015

震災復興支援の継続、震災を忘れない、語り継ぐ、震災の教訓を学び災害への備えを行うことを目的に、石巻、南相馬市に9月13日(日)・14日(月)の2日間、震災復興支援ツアーを高齢協連合会とともに実施しました。参加者は41人でした。

石巻では、宮城県高齢協会会計顧問の庄司慈明さんからお話をいただきました。会計事務所で仕事上の庄司さんは、大津波警報後、すぐさま「逃げろ!」と、自転車に乗って地域住民に声掛けにまわったそうです。後に残った奥様は、事務所職員7人と

下の階にあった障がい者支援センターの利用者14人の21人で、近くの山に避難すべく車に乗ろうとしたそうです。その時、1ヶ月前に実施した避難訓練の渋滞のこと、ビルの耐震診断合格を思い出し、とっさにビルに戻ろうと判断したそうです。それが生死を分ける決断でした。そして巨大津波を4階から目にし、今でもその時感じた恐怖は忘れられないそうです。

2日目は南相馬市の被災状況の視察でした。現地では帰還準備に向けて除染作業が進められ、除染は5cmまでを剥ぎ取る作業



被災当時の様子を話す庄司慈明さん

が実施されていますが、現在調査すると放射性物質は地面より10cmに沈下しているそうです。何度も市に除染効果の出る作業をと掛け合ったそうですが、予算が倍かかるということで、「できない」の一点張りだったそうです。国と東電の本音が見えてきた視察でした。

(事業部長 菅野俊明)